

“鮮度一番！”

No.224

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

1～2 / ワーママのジレンマ Vol. 7

2 / 『堤中納言物語』 第7話

2～3 / 日々是上機嫌

3～4 / 運営委員会で話し合われたこと 編集後記

Vol. 7

ワーママのジレンマ

石本史子

あっという間に師走も年末。本当に年々1年があっという間に過ぎてしまい、人生の短さを予感しているアラフォーでございます。ママになって数年。自分の予定以上に人の予定に左右されていると、本当に何をして過ごしていたのか思い出せないものですね。

さて、今回こそ村上 OHANA ネットさん！…と言いたいところなのですが、お互いに家族の都合に翻弄され、またもやリスケジュールと相成りました。準備が出来次第、原稿作成しますので、皆様、気長にお待ちくださいませ。本当にジレンマ続きです。

ということで、今回は、“田舎の待機児童”について書いてみたいと思います。

今年の3月、私は衆議院議員会館で行われた「#保育園に入りたい」というイベントに参加してきました。これは主に都内で働くママたちを発起人に、全ての子どもたちが安心できる場所で保育を受けられるように国会議員たちに直接訴えるというものでした。なぜ参加したのかというと、私は三條市でどれほど待機児童がいるのか正確にはわかりませんが、私の周りで全く保育園に入れないという人がいなかったの、東京と地方のギャップを見聞きするためでした。

結果、地方とは全く環境が違うことを感じました。具体的にどう違うかについて、ここで紙面を割くことはしませんが、「保活」に神経をすり減らしている都内と私の身近は似ても似つかないもので、待機児童については何となく記憶の片隅へと追いやってしまいました。

時は流れ11月。Facebookのニュースフィードで、「#保育園に入りたい」のママたちが、その名前を「希望するみんなが保育園に入れる社会をめざす会」とし、ネット上で署名運動を行っていたのです。それは、与党自民党のオジサマたちがまとめている、3～5歳の保育園無償化について反対するものでした。彼女たちの主張は以下の様です。

“無償化は本当に必要とする人から実施してください。保育士の処遇改善および保育園・保育サービスの質と量の拡充を同時に進め、待機児童を解消してください”

これをきっかけに、なんとなく気に留めることもなく過ごしていた待機児童問題に再び目が行きました。そうだ！三條でも今の仕組みでは必ず発生しうる待機児童が解決されていないじゃないか、と。（上記団体の主張や詳細は、ぜひ「保育 無償化 change」で検索してください！）

知っている方のお子さんは1月生まれです。ですから、その方は1月に1年に育休が満了となり、会社へと復帰を予定しています。しかし、お子さんを預けようと思っても、1月生まれでは、前の年

の10月末の保育園申込には到底間に合わず、産後、何度も何度も市役所に相談に行っても、紹介されたのは自分の生活圏外、往復1時間近くしてしまうような保育園だったそうです。待機児童にはならなかったものの、12月生まれのお子さんは、その子のお姉ちゃんとは同じ保育園に空きがなく、栄地区と三条地区にママはそれぞれ通園させていました。これがどれだけ大変か、やったことがある人はわかるでしょう！（そもそも子どもは登園準備が手のかかるものですから時間なんていくらあっても足りません）

保育園申込締め切り後の11月～3月に生まれた子たちはママの育休が満了して、復帰しようと思っても、預け先がなかったり、兄弟姉妹別々に通園という不自然な形にならざるを得ないのです。これは明らかに解決すべき問題ではないでしょうか？

解決策の一つとして、男性の育児休暇取得がありますが、私は行政の方にも方策を考えてほしいと切に願います。私は下の子を5か月ほどで保育園に入れました。最初は申し訳なさも私の心に合ったのですが、たくさん病気をもらってくるものの、それ以上に子どもが母の方を振り返ることなく友達の方へと向かっていく姿にはたくましさを感じます。保育園は本当に素晴らしいところです。そんなところへ望む人が全員行けるようになることを心から願っています。

『堤中納言物語』を読む (第7話) 「貝合せ (かいあわせ)」

三条地名研究会 杉野真司

「貝合せ」はタイトルそのままに、前回の「逢坂越えぬ権中納言」の「根合せ」に続いて、貝合せという「合せ (あわせ)」の遊びが登場します。貝合せは、時代が下がると貝覆い (かいおい) と混同されますが、本来の貝合せは、きれいな貝のコレクションの優劣を競う遊びです。一方、貝覆いは、ランプの神経衰弱のように、二枚貝のはまぐりを別々に分け、元のひとつにぴったりと合わせる遊びです。博物館などで展示される江戸時代のお姫様の嫁入り道具は、貝覆いの方です。

「貝合せ」は古典文学としては珍しく、子供の世界を描いた作品です。ベースには、シンデレラのような継子 (ままこ) いじめのストーリーがあります。主人公の貴族の男性が、劣勢の先妻のお姫様を陰ながら応援しつつも、ロマンスに発展する訳でもなく、のぞき見しながら見守るだけのお話です。読み方次第では、ロリコン風のお話しととらえられなくもない作品です。『源氏物語』の女主人公紫の上が最初に登場するのは、まだ幼い少女の頃でした。『源氏物語』は長編物語なので、その後、紫の上は成長し、大人としての苦悩を体験するストーリーが展開されます。光源氏との最初の出会いで、既に大人への成長が想像されています。一方の「貝合せ」は、短編物語という性格もあって、主人公は、登場する子供達をほほえましく眺めるだけで、完結した子供の世界を描き、閉じられた時間の中でお話しが語られます。「貝合せ」は「ピーターパン」の様に、大人にならない、子供の時間が永遠に続くかと思わせる視点に立った作品です。

(H29.11.30)

～日々是上機嫌～

田辺とも子

新潟の冬をめざし、渡ってきた鳥たちは到着して一段落したころだろうか。その鳥の代表格、白鳥は今年も五十嵐川にきてくれた。食事に不自由することなく過ごして欲しい。瓢湖や福島潟、佐潟など野鳥観察の有名ところは多々あるけれど、超・至近距離で白鳥を見るならば“五十嵐川”が一番だと思う。

景色の一部として野鳥を見ることは好きであっても“ヒチコックの鳥”に恐怖感だけが残っている私。

15年位前、鷹柱 (たかばしら) を知った。タカが秋の渡りに上昇気流に乗りながら竜巻のように旋回するさま

をいう。見てみたい一心で観察場所で知られる小千谷市の山本山へ時々出かけたが遭遇できずにいた。野鳥の会の方にタカは三条や悠久山方面から小千谷に来ると聞き、以来田島にあった男女共同参画センターの3階から道心坂方面をながめるのが楽しみになった。

ある10月の晴れた日、5～6羽からあつという間に20羽以上のそれははじまり、興奮の数分間は期待以上だった。以後、なんとなく鳥を探す習慣の私の家に、ツバメが営巣するようになって久しい。今年は全員が無事巣立ちしたが、1羽だけがいつまでもうちにはいりし“森昌子の越冬つばめ”になるのではと本気で心配した。姿が見えなくなった今でも、1羽っきりの鳴き声を聞くと「ウチの子？」と心がざわつく年の暮れである。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成29年12月6日(水) (AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

新年1月の運営委員会は、お正月と重なるため、第1水曜日から第2木曜日の11日へ変更します。会場、時間はいつもと同じ、男女共同参画センターで午前9時半からです。どなたでもおいでください。

1. なにか報告はありませんか？

11月25日(土)長岡市のさいわいプラザで開催された元慈恵病院看護部長 田尻由貴子さんの講演会へ、田辺、西方、安室、野水、野崎の5人で聴講して来ました。安室さんから参加報告をいただきましたのでお読みください。

田尻由貴子からのメッセージ

かけがえのない命をつなぐ
～赤ちゃんポストから見えてきたこと～

安室久恵

熊本慈恵病院の「赤ちゃんポスト」設置当時看護部長であった田尻由貴子さんの講演会に参加した。2007年設置され、「赤ちゃんポスト」として世間に通用しているが、病院では「このとりのゆりかご」といわれていて、確かにそのほうがやさしいと思う。

ドイツでは「赤ちゃんポスト」は100か所以上設けられ、相談・援助が実施されており、先行事例として影響を受け、慈恵病院では長い時間をかけて準備したという。小さな命を救いたいという使命感で開設した「ゆりかご」である。24時間、365日、日本初の運営開始で10年間奮闘された。相談は2万件を超え、実際に預けられたり、出産に至ったりで、ギリギリのところ救われた命が数々あったのだ。出産・育児の問題を考えると、社会的課題が山積しているからと、田尻さんは性教育、子育て、人権などの講演や実際活動に全国を駆け回っている。

母となることがすべて幸せでない事情はいくらでもある。女性たちのSOSを受け止める、小さな命を守る社会でなければと痛切に思う。身近にそうした事例がないにしても、もし自分が誰にも相談できなく一人苦しむ状況になったらと想像したらどうだろう。子どもは社会の宝、健やかに育てられるための様々な支援、意識改革をしていかなければならないと改めて考えた。母子支援が十分に行われ「このとりのゆりかご」そのものがなくなる状況がくることが目指すところであるとの言葉に参加者は肯いていた。

2.

研修会&新年会について

来年1月の研修会「たのしく孫育て!!!」では、講師の開業助産師西方久子さんが、孫を見る私達が健康で輝いていることが大切で、「孫育て、今の状態で輝いていられるかどうか」をキーポイントにお話をしてくださるそうです。まだ、申込をされていない皆様、是非、申込をお願い致します(^^)!

◆日時：2018年1月27日(土)

午後4時～研修会、午後5時～新年会

◆会場：旬彩酒房たかだ(三条市旭町1-7-21 TEL0256-35-2704)

◆テーマ：「楽しく孫育て!!!」

◆講師：開業助産師西方久子さん

◆会費：お料理3,500円 別途飲み代金

◆駐車場：たかださんの駐車場8台。他、一ノ木戸商店街にある旧第四銀行三条東支店の駐車場、利用可。

◆申込：お近くの運営委員、または、野崎(TEL080-1042-9788)、または、このページをそのままFAX0256-32-3679でお送りください。

研修会 ・ 懇親会 へ参加します。(参加されるものに○印をつけてください)

お名前

3.

総会の記念講演会、講師について

総会での講演会講師について、折にふれ候補名があがっています。早い時期に決めて、交渉に入れたらと思っています。

また、次回の総会では、二年に一度の役員改選があります。月に一度の運営委員会への参加なら出られそうだという皆様をお待ちしています。どうぞお声をかけてくださいますようお願い致します。

編集後記：

先日長男が8年越しの恋を实らせやっとな結婚にたどり着き、みんなが待っていたお嫁さんを迎え、7人の大家族の生活がスタートしました。暮れの大掃除に向け戦力が整い、来年はピカピカのお正月を迎えられそうです。今年最後の鮮度一番224号、どうぞ隅から隅までお読みください。(原)



編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>